

# CASBEE® - 建築(新築)

# 評価結果

■ 評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本板硝子㈱ 技術研究所 第2研究棟新築工事	階数	地上4F
建設地	兵庫県伊丹市鴻池二丁目177番	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条の指定地域	平均居住人員	50人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,085時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年11月 予定	評価の実施日	2021年11月20日
敷地面積	37,457 m <sup>2</sup>	作成者	張田 裕之
建築面積	1,179 m <sup>2</sup>	確認日	2021年11月25日
延床面積	4,396 m <sup>2</sup>	確認者	張田 裕之



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.5</b></p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外の ④ 上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア = 2.9</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 3.1</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 2.9</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア = 2.7</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア = 3.7</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 4.4</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 3.2</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.4</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b> 都市近郊の研究施設としてゆとりある空間にできるだけ低層・規模が大きくなりな建物配置を考慮した。植栽の配置、建物の色彩計画等、地域環境に配慮した計画としている。</p>		<p><b>その他</b> 建物の色彩計画に関しては地域への配慮として、景観条例に基づく色彩計画を施した。</p>
<p><b>Q1 室内環境</b> 研究施設として十分な音・室温・断熱・空気室内環境を備えた建物として計画した。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> 階高、室内空間、耐震性能、空調性能に関して、各種研究・試験を行うに十分な配慮を行う設計を心掛けた。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 建物配棟には各棟間に十分なスペースを確保し、適宜緑地帯を設け、環境に配慮する設計を心掛けた。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b> 建設コストに配慮しつつ、標準以上の性能の維持ができるよう配慮した。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水、非再生資源の使用削減、汚染物質の非利用をできるだけ配慮する設計とした。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> 本建物が地域社会へ悪影響を及ぼすことをできるだけ配慮し、会社ブランドの維持向上が図れるよう努めた。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される